

## 学位論文内容の要旨

学位申請者	BAJRACHARYA DINU 【人間発達科学専攻 平成26年度生】	要 旨
論文題目	ネパールの初等教育における中退リスクの規定要因 —カトマンズ盆地を事例として—	<p>本研究の目的は、①中退リスクのある児童の特徴は何か、②学校と教員のどのような要因が児童に中退したい気持ちを起こさせているか、③教員—児童のコミュニケーションがどのように中退リスクに影響しているのか、④友人（学校内外の）のどのような要因が児童の中退に影響しているか、⑤中退率の高い公立学校と低い公立学校間の差が中退リスクに影響しているか、を明らかにすることである。</p> <p>中退リスクのある児童の特徴としては、教員や友人とのコミュニケーションの不足、学業に対する消極性（教室内で後ろの方に座るなど）、友人の数が少ない、学校のグループ活動に参加しない、教員と話するとき緊張する、などの点あげられる。</p> <p>また、児童の中退リスクに影響する学校要因としては、期末試験の重圧、英語の問題、教員の教授方法、教員の欠席などがある。さらに、ストリートチルドレンに対する聞き取り調査、事例分析などから、学校内外の友人関係も中退リスクに関係しているといえる。</p> <p>従来、家庭の貧困などの経済要因が児童の中退に深く関係しているとされてきた。しかし、本研究では、経済階層を統制しても、学校や教員の諸要因（教員との会話や授業方法など）は、中退リスクと有意な関係は残される。そのため、学校や教員の働きかけによる状況改善の可能性が示唆される。</p> <p>教師と児童の間にコミュニケーションが不足する要因としては、①教師中心の授業、②教授内容の消化を中心とした教育方法、③教員の評価（授業中の静かさによって教員が評価されること）、④親によってつくられた教員イメージ（教員は怖いというイメージ）、⑤教員による体罰と叱責、などがある。</p> <p>中退率の高い公立学校と低い公立学校を比較すると、児童による選択活動、教材の作成技術と利用、教員の授業方法、保護者と教員の話し合い、学校の管理運営、などに違いがみられた。</p>
審査委員	(主査) 教授 浜野 隆	
	准教授 富士原 紀絵	
	教授 池田 全之	
	教授 小玉 亮子	
	准教授 丸山 英樹 (上智大学グローバル教育センター)	